

地小出版  
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 『いのちの乳房—乳がんによる「乳房再建手術」にのぞんだ19人』に寄せて

「写真集という手にとれる存在が大事。  
伝えたいのは単に手術の情報ではなく、  
経験した女性がどんなふうに  
生きているかという姿なんです。」

文・株式会社赤々舎 代表取締役 姫野希美

### 「私の胸を見てください」

「乳房再建」、この硬く聞き慣れない言葉とともに、写真集を出したいという電話があったのは、2010年2月のことと記憶している。たぶん声の静かな響きに導かれて、それから間もなくSTPプロジェクトの3人の女性と会った。そのうちの一人、真水美佳さん自身が乳がんを患い乳房再建手術を経験したことが、出版を企画したきっかけであるという。なんだか途方もないような気もちで聞いていた。

写真集のモデルとなるのは手術経験者で、執刀医やHPを通して募集する予定であること。撮影はアラキーこと、荒木経惟にお願いするつもりであること、寄付金を募り全国の医療機関に写真集を贈りたいこと。つまり、目の前にはまだ一枚の写真もなく、しかし、彼女たちのなかで写真集の姿と行方は鮮明だった。

同じ女性であっても「乳がん」という言葉は近くはなかった。社会的な意義というようなこともピンとこない。どうして書籍の形にする必要があるのだろうと首を傾げた。インターネットで検索すれば、「乳房再建」にいくらかでも行き着くのではないだろうか。そんな私の問いかけに真水さんは、「ウェブ上で記事を読めば読むほど混乱して、不安になったんです。写真という目に見える形が大事。写真集という手

にとれる存在が大事。伝えたいのは単に手術の情報ではなく、経験した女性がどんなふうに生きているかという姿なんです」と語った。この企画が写真集であることの必然、荒木さんが撮り下ろすことの必然がぼんやりと感じられて、先行きの見え

ない企画に立ち会うことに決めた。帰り際、真水さんは、「私の胸を見てもらえますか」と言って服を脱いだ。美しい丸みが目の前にあった。経験を共有することはできないが、体温をやりとりすることはできるのかもしれない。

### 「19人の女神を撮った！」荒木経惟

とはいえ、まずモデルとなってくれる女性が集まるのかどうか、懸念した。フルヌード、そして顔も写ることが撮影の条件。家族や周囲の理解も必要となる。ところが、真水さんが報告してくれる度に応募者の数は順調に増えていく。そこにはこんな声があった。

「乳がんになったことで、驚くほどたくさんの素晴らしい人々や出来事との出会いがありました。それが“キャンサーギフト”。今度は私から、まだ見ぬ患者さんたちにギフトを贈る番です」

「いま、“女性としてもっと綺麗に輝



いていたい”と心から思うようになりました。モデルになると決意したのも、内面からすっかり変わることのできた自分を撮ってほしかったからです」

19人がそれぞれの思いと勇気を抱いて、荒木さんのカメラの前に立つことになった。7月の六本木スタジオ。私も撮影に立ち会うことにしたものの、緊張で気が重かった。現場はどんな空気になるのだろう。女性たちは一世一代の気もちで臨むのかもしれない——。そんないささかの躊躇いは、スタジオのドアを開けたとたんに弾き飛ばされることになる。荒木さんがあの少し高めの声で話しかける度、シャッターが切られる度、たったひとりでライトのなかに立つ女性の顔が生きて生きと輝いていく。一番圧倒されたのは、九州から参加した方だった。この撮影のために生まれて初めて上京した彼女は、普段かけている眼鏡をはずし短いウィッグを付けていた。そしてカメラに向き合うと、光を受けて上体

をゆるやかに揺らした。差し上げた腕を美しく交差し、自分の内側へ深く潜りながら、すべてを宥すように揺れていた。10分余りの時間、それぞれの女性のエネルギーと荒木さんの眼差しが交わり、二つとないポートレートが生まれていった。

娘さんと一緒に撮影した方も3人いた。母の胸元に手を当てる娘。手をつなぐ娘。どの顔も誇らしそうに笑っていて、家族に流れた時間がそこにあった。

**全国の医療従事者へ、寄贈すでに408冊**

発売から半年。ご紹介いただく機会も多く、写真集は旅をしている。巻末に「モデルさんたちの声」「乳房再建手術を行っている医療機関と担当医」「乳房再建手術とは」のような資料を掲載していることも、この本を切実に必要としている方にとって役立つらしい。乳がんを患った方、いま問題を抱えている方から直接お問い合わせや感想のお電話をいただいたことも一度や二度ではない。

そして、STPプロジェクトは当初の志のとおり、全国の医療機関へ写真集



撮影現場での荒木経惟さん

の寄贈献本を続けている。趣旨に賛同して寄せられた寄付金から、乳腺外科医246名と乳がん看護の認定看護師162名にすでに送付を終えた。不安と孤独に苛まれるかもしれない病院の待合室にこの本が置かれていたら、あるいは選択肢の一つとして担当医が見せることができたら……微力かもしれないがそうして存在することを願っている。今後もさらに献本を続け、展覧会

を開催するという新たな目標に向かってひたむきに進むSTPの活動に、私たちも協力していきたい。

**私は見る度に見返され、力をもらう**

この写真集は、書店で実用書の棚に置かれることもあれば、芸術のコーナーに置かれることもある。どちらでも、できれば両方ともあることが、求めてくださる方にとって望ましいのかもしれない。情報を超えて、人の生々しいまでの美しさと生命力に迫るこれらの写真から、私は見る度に見返され、力をもらう。写真集が見る人とつながることの可能性を、『いのちの乳房』は様々に拓いてくれた。

左手薬指にはめた指輪をかざして微笑む女性の写真には、こんな声が添えられている。

「手術後に運命の人と出会い、手術の日からちょうど2年目に結婚しました。命のある喜びを、結婚記念日とともに思い起こすことができるように――」

一冊のなかに息づいている日々と思い。そしてそれを伝えてくださった皆さんに心から感謝したい。

(ひめのきみ/株式会社赤々舎 代表取締役)

**新刊ダイジェスト**

※価格は総額(税込)表示です。

**『チェルノブイリ原発事故 25年のメッセージ―特別付録「東日本大震災」と福島原発事故』●原子力資料情報室編著**



忘れもしない1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故。それから25年、本書はこの大事故を風化させないために準備され、事故、被害、輸入食品汚染の全容と現状をまとめ、刊行を目前にしていた。わが国原発の危険性を、「原発がどんどん老朽化していく一方で巨大地震が近づいていることを考えると、まさに大事故を準備しているに等しいと言っても過言ではない」と指摘。予

想ではない。科学的分析の結果である。福島原発事故を受け、急遽、『東日本大震災』と福島原発事故」が加えられた。使用済み燃料や廃棄物処理、労働者被爆など未解決課題は山積する。原発を止める道筋を本気で考えたいと結ぶ。

◆525円・A5判・48頁・原子力資料情報室・東京・2011/4刊・ISBNなし

**『東電・福島第1原発事故備忘録 シリーズ「環境問題を考える」3』●近藤邦明著**



10余年前から「環境問題を考える」ホームページを立ち上げ、地球温暖化やエネルギー問題に警鐘を鳴らし続けてきている著者が、大震災の翌日から4月4日まで毎日掲載した記事を中心に取りまとめた、リアルタイムの出版物である。東電福島第1原発事故は100%人災であり、原発そのものの危険性をなぜもっと強く訴えてこなかったかと悔やむ。直ちに健康被害が出るレベルでは

ないから安全というレトリック。諸外国からどんなに批判されても開示を拒み続ける東電と政府の情報統制。海水注入をした緊急措置の誤り。被爆労働の問題。最悪の事態を想定し、あらゆる角度から本質を問い直そうと訴える。

◆1575円・B5判・95頁・不知火書房・福岡・2011/5刊・ISBN978-4-88345-051-0

# 売行良好書

期間：2011年4月16日～5月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『未来ちゃん』2100円・ナナク社 (2)『体質と食物』368円・クリエー出版部 (3)『死の同心円』1680円・長崎文献社 (4)『私たち図書館やっています!』1470円・南方新社 (5)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』735円・吉備人出版 (6)『歌集 てんとろり』1365円・書肆侃侃房 (7)『絵本講師の本棚から』1470円・「絵本で子育て」センター (8)『発達障害のある子とお母さん・先生のための思いっきり支援ツール』1890円・筒井書房 (9)『おから百珍』2201円・G U企画 (10)『東電・福島第1原発事故備忘録』1575円・不知火書房 (11)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (12)『河野裕子』1890円・青磁社 (13)『なせば成る!』840円・山形大学出版会



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 5月号』420円・東京かわら版 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナク社 (3)『昭和プロレスマガジン23』1000円・昭和プロレス研究室 (4)『北海道いい旅研究室13 book 2』690円・海豹舎 (5)『北海道いい旅研究室13 book 1』690円・海豹舎 (6)『とほ 2011-2013』580円 (7)『信濃村上一族』2100円・歴研 (8)『沖縄戦』4410円・出版舎Mugen (9)『フリースタイル15』932円・フリースタイル (10)『酒とつまみ』400円・酒とつまみ社

【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『未来ちゃん』2100円・ナナク社 (2)『ハンドブック 災害と心のケア』735円・アスク・ヒューマン・ケア (3)『東電・福島第1原発事故備忘録』1575円・不知火書房 (4)『チェルノブイリ原発事故 25年のメッセージ』525円・原子力資料情報室 (5)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』735円・吉備人出版 (6)『考えてみようよ原発のこと』840円・原子力資料情報室 (7)『特別報道写真集 東日本大震災』1000円・岩手日報社 (8)『みんなのくらしと放射線』1575円・大阪公立大学共同出版会 (9)『本屋大賞2011』580円・本の雑誌社 (10)『風力発電の不都合な真実』2100円・アットワークス

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

## トピックス —★★★

### ▼ジュンク堂新宿店で復興支援フェア

ジュンク堂新宿店にて「明日のためにその1冊～東北再生のために今書店ができること」(期間7月末まで)と題されたフェアが開催中。被災県の出版社が活動再開されるのを待って、満を持しての企画です。普段、東京ではあまり見かけることができない河北新報社の本をはじめ200点余が展示されます。3月26日に歴史春秋社から発行された『ふるさと散歩 日立・北茨城・いわき・双葉・南相馬編』(1260円)は浜通りを活写した散歩ガイドですが、再びこの地に足を運べる日はいつ?と思うと胸が詰まります。また、東北出版企画刊『大槌の自然、水、人』(2310円)は加藤・大槌町長にとって遺著となってしまった、同町の自然文化を伝えるく未来へのメッセージです。集落が分散を余儀なくされ、その地で息づいてきた固有の言葉もその存続が大きな危機にあります。1983年の刊行以来息長く読み続けられている、熊谷印刷刊『岩手の方言をたずねて』(1500円)なども貴重でしょう。今回、岩手日報社から提供された、3.11から2週間ほどの同社新聞1面記事は迫真!どうぞ足を運ばれ、集められた本に託す書店員のアピールをお受け取り下さい。

### 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



## 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
TEL. 03-3233-3312(代)  
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

